

第 96 回連合山口県央地域協議会メーデー
戦後・被爆 80 年 次代につなぐ平和の特別決議（案）

2025 年、戦後・被爆 80 年となる。

80 年前、第二次世界大戦により、世界で約 8 千万人が犠牲となった。人類史上、初めて広島に、そして長崎に投下された原子爆弾は計り知れない破壊と苦しみをもたらした。

今なお、戦禍の傷跡や痛みは癒えていない。私たちは、不戦の誓いのもと、働く仲間が連帯し、平和・人権・民主主義を守る歩みを進めている。

ウクライナ、パレスチナ、ミャンマーなど、世界では戦争・紛争や人権侵害が起きている。なんら罪のない多くの人々は苦しみ、依然として核兵器の脅威は存在している。戦禍の記憶を風化させることなく、武力ではなく、対話と信頼の関係構築を通じ、戦争や核兵器のない世界、持続可能な世界の実現に向けて、私たちは、不断的努力を続けなければならない。

昨年、被爆者の立場で「核兵器なき世界」を訴え続けた日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことは、「対立と分断」を深める世界への警鐘である。

「一発の原子爆弾は私の身内 5 人を無残な姿に変え一挙に命を奪いました。その時目にした人々の死にざまは、人間の死とはとても言えないありさまでした。たとえば戦争といえどもこんな殺し方、こんな傷つけ方をしてはいけないと、私はそのとき、強く感じたものであります。」

これは、日本被団協・代表委員の田中熙巳（たなか てるみ）さんの言葉である。

戦争は最大の人権侵害である。

今を生きる私たちの責任として、戦争の悲惨さと平和の尊さを次代に継承していかなければならない。

戦後・被爆 80 年の今、世界がより良い^{あした}未来へと向かうための行動と平和の誓いを新たにし、次代につなぐ平和の決議とする。

2025 年 4 月 26 日
第 96 回連合山口県央地域協議会メーデー